

2010年11月1日

Vol.72

みみん みみん



【題字】 谷川俊太郎さん



渡邊氏は、2000年1月に(株)ISFnetを創業して代表取締役就任されました。会社は「5大採用」を実践しながら創業以来7年連続の前年比120%〜200%の成長を続けています。無知識未経験の人たちにITを通じて一人でも多く「働くことへの喜び」や「生きがいの発見」をしていただくための人財育成プランを作り上げ、「自分は会社で社員たちに好かれている自信が有る、自分の存在意義を感じられる、だから会社に行くときはスキップしたくなるほど楽しい。」とおっしゃる渡邊さんです。

■目次

- P2~4 第12回通常総会記念講演／総会報告
- P5~6 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から
(2010年8月—2010年9月)
- P6~7 今夏のインターンシップ
ソーシャルビジネス支援への取組み
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

通常総会記念講演

第12回通常総会記念講演

ITをツールにして多様な人々に雇用の機会を ～ISFnetグループの挑戦～

日時:2010年9月5日(日)15:45～17:45

会場:仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

講師:アイエスエフネットグループ 代表 渡邊 幸義 氏

株式会社ISFnetは、全国16都市、海外6カ国に拠点を置くネットワークエンジニアの人財育成会社です。ITを通じて、働くことに制限のある方々に対し、安心して働ける就労環境を創造・提供して、社会参加の実現を目指して新しい人財育成モデルを創り上げました。少しでも「生きがい」を感じてもらいたいという願いから働く環境の創造に取り組んでいます。今回はISFnetがなぜこのように多様な人々の雇用にこだわり、業績を伸ばすことに成功しているのか。その取り組みと実績を代表取締役の渡邊幸義氏にご講演いただきました。

■一人ひとりの強みを対価に変えることが出来れば、
それは事業として立派に成立する。

ISFnetグループは、サテライト拠点を仙台でこの秋オープン予定です。今日はそれがどのような会社なのかをお話したいと思います。既に仙台支店があり、そこでは100名程の雇用がありますが、今回の挑戦は就労困難な方にしっかりと給料を払い、そして生きがいを感じて頂く為です。雇用を作ること。目的はそのただ一つです。どのように進めていくのか、10年間の経験をお話したいと思います。

当社は2000年1月に1000万円の資本金で立上げ、東京は浅草橋で10坪から始めました。現在は日本を含めて7カ国に拠点があり、従業員数1700名、主にネットワークのサービスを提供しています。まずフィロソフィー(哲学)をご説明します。わが社の大義はE & E (Eco & Employment)。“限り有る資源の有効活用と次世代の働く環境の創造”を目指しています。そして、グループ3社((株)ISFnet、(株)ISFnetハーモニー、(株)ISFnetケア)で行っているのが、“5大採用”です。“5大採用”とは、まずニート・フリーター、次にFDメンバー。FDメンバーとは、障がい者のことで未来の夢を実現するメンバーという意味です。それから3つ目が育児や介護などで時間や場所に制約のある方、そして引きこもりの方。そしてシニア世代の方です。以上を5大採用としています。現在

のISFnetグループの構成は、今年7月現在ニート・フリーター500名以上、FDメンバー27名で、その内半分は重度障がい者です。時間に制約のある方19名、シニア84名、引きこもり26名、外国人64名となっています。リーマンショックの後、同規模の会社は90%以上がリストラをしていますが、当社は行っておりません。現在もISFnet本体で65名の正社員雇用、ISFnetケアでは毎月30名雇用しています。

スタート時、無知識、未経験者を募集しました。未経験者をITの業界で雇うなんて、100%失敗すると周りの皆に言われました。しかし創業から5年間で200%ずつ成長しています。誰もやって

総会報告

9月5日(日)、当センターの「第12回通常総会」が開催されました。司会の渡辺理事より定款23条に基づき議長の選任を行い、議長、大滝代表理事のもと、総会の成立を確認後、議事録署名人を白木福次郎さんと伊藤あづささんにお願ひしました。

まず第1号議案「2009年度の事業報告および決算の承認」、次に第2号議案「2010年度の事業計画および予算の審議・決定」とともに承認されました。役員選任期に伴い、「第3号議案役員の選任」では、田代久美さん・山田晴義さんの両名が理事を退任することになり、新任として宮城大学事業構想学科教授の風見正三さんが選任され、賛成多数により承認されました。山田晴義さんには今後は顧問をお願いすることとなり、また参与として(株)アート・システム江幡正彰さんが就任されたことを報告致しました。

総会終了後、所轄庁、法務局、税務署などの届出を9月中に完了したことを報告致します。

当日、会場から激励の言葉を多く頂きました。職員一同、皆様の期待に答えられるよう今後も頑張ります。(浪越茂)



斎藤 幸義氏

いなかったから分からなかっただけで、やってみたらうまくいったのです。私はスピードやスキルは見えていません。社会は礼儀や挨拶で人を受け入れます。スキル、経験以外の部分に焦点を当てると採用できる範囲は一挙に広がります。大切なことは、これを対価として認めてもらえるような努力が必要ということなのです。私が他の経営者と違うとしたら、その焦点を当てた部分で努力をしてきたことです。一人ひとりの強みを対価に変えることが出来れば、それは事業として立派に成立します。

こうして2000年1月から2010年2月までで、5大採用を成功させました。当社の30%以上の人間が5大採用です。

■引き算の経営から、足し算の経営へ

毎月1回ディスレクシアの会に参加しています。ディスレクシアとは、ものを二つか三つしか記憶ができない、字や色や風景が他の人と同じに見えないなどの脳の病気です。日本には約600万人いると言われていますが、この方々は企業から排除されています。こういった画一的な採用は差別につながります。企業は、こういう方にも雇用を創る努力をしなければなりません。そういう雇用をしている企業は競争で負けていってしまう為、どんどん淘汰が始まります。このように、企業の間違いは入り口で人を選んでしまっていることなんです。これは改めていかねばならない、

大きな問題です。

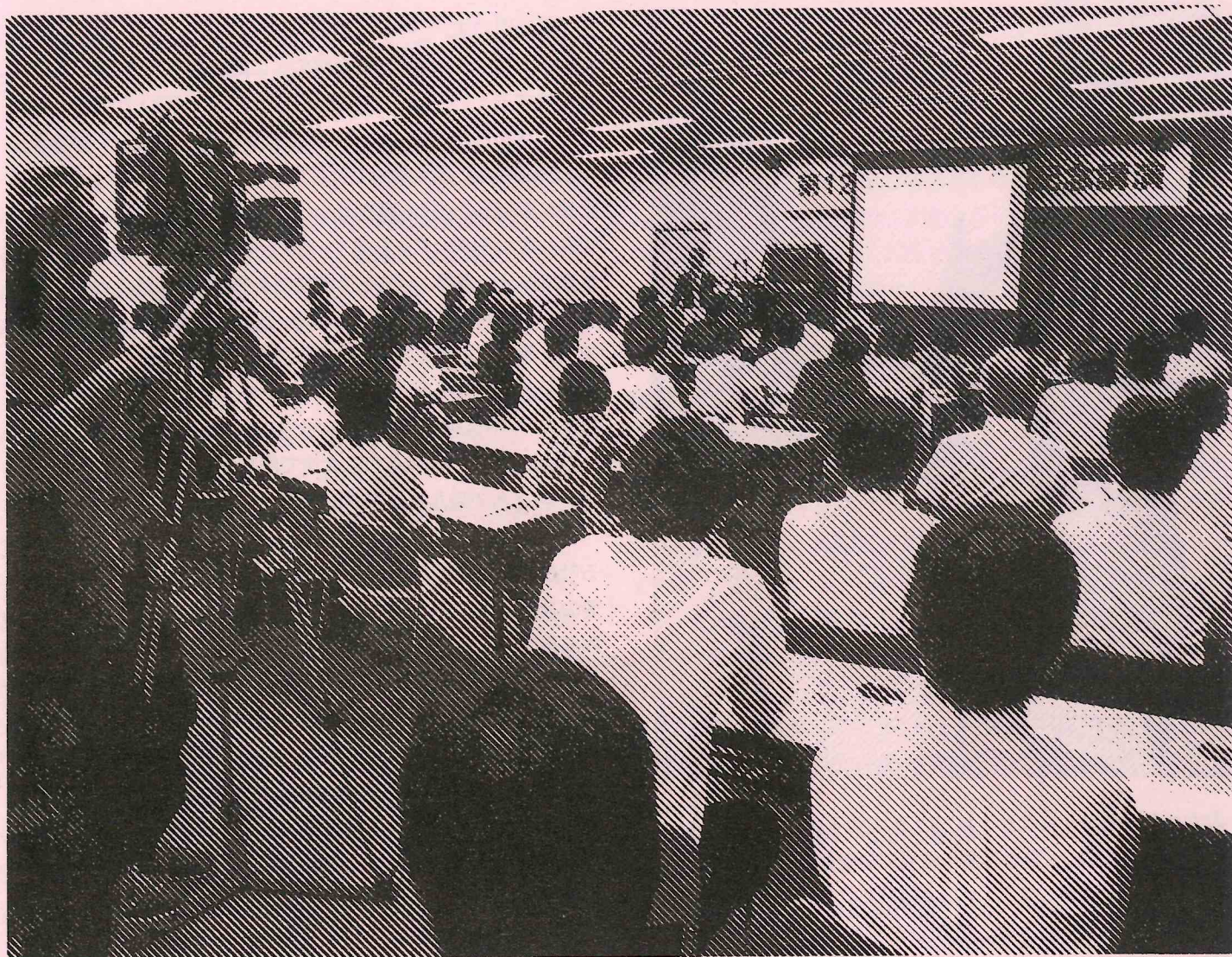
当社の最初の大義は、無知識の人に経験を与え、安定した雇用を創造するということでした。ここで学び、600人が他社へ転職していきました。ある会社では、当社から30名採用していきました。その中には、長年勤めて社長賞をとった者もいます。また上場企業に転職した方が、育ててもらった恩があるからと、当社との大きな取引を作ってくれます。結果として当社は成長しています。事業は自分の損得よりも相手の損得を中心に考えることなのです。

障がい者を雇用しようとした際、最初は簡単にたくさん応募が来ると思っていましたが、全く見当違いでした。障がいを持っている子どもの親にとって、ITやベンチャー企業などはイメージが良くなく、不信感を持たれています。せっかく授産施設で働いているのに、すぐつぶれそうな企業で働かせたくないというのが理由です。それで親たちを説得し、納得して頂く必要があったんです。

『一人1秒のプレゼント』というエッセイがあります。以前、ある社長さんと会食をし、私が障がい者雇用を熱く語った時です。その社長は嬉しそうな顔で涙を浮かべ、「実は、僕の息子は障がいがある。今日初めて恥ずかしくなく人に言えました。」とおっしゃったのです。私は、障がいは恥ずかしいことではないと懸命に伝えました。その時にその方から『一人1秒のプレゼント』というエッセイを頂いたのです。そのエッセイを読んで、目の前がぱーっと開けたように感じたことを覚えています。

リーマンショック後、最初にリストラされたのは障がい者や精神疾患の人でした。これは引き算の経営です。しかし、これからは足し算の経営をしなくてはなりません。当初、社員の障がい者雇用に対する反対の理由は「我々の給料が減る」ということでした。ですが、実際は逆で、彼らが在籍することにより会社の能率が上がりました。一人5分時間を無駄にしなければ当社では1億円の利益に貢献できます。常に5分前行動を心掛けるようにと言っても、人のモチベーションのコントロールは難しいです。しかし、経費をかけて社員を東京に集め研修を行い、時間を有効に使うことを意識してもらうようにしたら、無駄に使う人がいなくなりました。経費的にはマイナスでも、結果的にはプラスになる。これが足し算の経営です。引き算の経営では何も引き出せません。これがISFnetハーモニーのビジネスの大きな展開につながっています。

ここに『おかあさんの詩』という詩があります。亡くなってしまった15歳の重度障がいの子どもが、指と唇だけで作った母親に対する感謝の気持ちが書かれたこの詩から、私たちは、何に対しても生きていることに感謝をする気持ちを忘れないことを学ばなくてはならないと思います。彼らが仕事をする環境を、私たちが協力して作ってあげなくてははいけません。彼らは大きい声で挨拶し、どんな仕事も一生懸命やります。ISFnetが一番いいところは、毎日泣き顔を見られることです。悔し涙ではなく、感動で泣けるシーンがたくさんあります。



職業訓練は、普通の人が3回で済むことを1000回やる覚悟を持って望まなくてははいけません。時間削減していいものといけないものを見極め、その人の強みを引き出すことを継続して事業としてやっていくことが非常に大切です。ISFnetハーモニーのシステムでは、アスペルガーの人がプログラマーになるのに3ヶ月です。3ヶ月後には健常者より仕事が早く出来る人もいます。これは希望になります。仕事が速ければ当然給料も高くなります。希望を持っていただける革新的なしくみです。このしくみを作るのに協力してくれた社員は、彼らに仕事とやりがいを作り、当人だけでなく家族など、関わる全ての人に幸せを与えました。自分がやっていることが、本当に人に役立っていると実感することが、生きている上でやりがいにつながります。これを事業で体感できることほど素晴らしいことはないと思っています。

**■知識は偏見ではなく、
理解し弱みを補充、強みを活かすために使うもの**

知能指数が80以下の人は知的障がいとして障害者手帳を持つ

ていますが、81になると障害者手帳を取ることができません。手帳を持っていれば、企業での障がい者雇用としてのカウントがあるので需要がありますが、障害者手帳を持っていないボーダーの方たちの雇用率は10%です。こういった方々の雇用も仙台で展開していきたいと思っています。毎月行っている保護者向け説明会に、ダウン症や自閉症の子どもを持つ母親に、当社で重度障がいの子どもが時給910円で働いていることを話すと、ぱあっと明るい顔になります。その事実があるだけで未来への希望が持てるのです。仙台で成功させるためのポイントは、NPOや企業、行政などと連携し体制を整え、そして1000回やり続ける覚悟を持つこと。周りにしつこいと言われても続けます。それから多様化を受け入れる意識が必要です。これを地域が受け入れてくれるように見学会も行います。知識は偏見ではありません。知識は、理解し弱みを補充、強みを活かすために使っていくものです。これからは、効率化を求める企業は必ず無くなります。それを当社で証明したいと思っています。

最初に周りから必ず100%つぶれると言われてきました。でもつぶれていません。結果で証明します。(能藤玲子)

ゆらゆらり、揺れ始めてます！ 「フラスコおおまち」

このニュースレターでも都度お伝えしている、ソーシャルビジネス・トレーニングジム「フラスコおおまち」。無事に船出を迎え、有難いことにいろいろな方にお声掛け頂いております。今回は、そんなフラスコの現状をご報告致します。

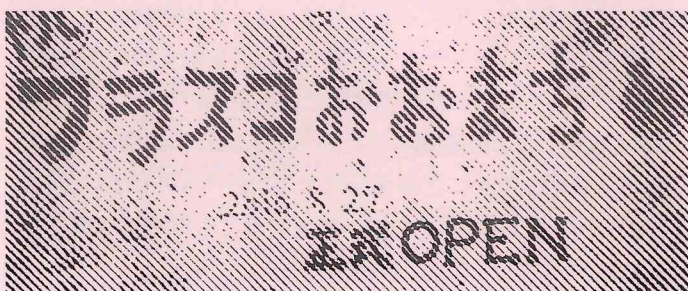
■正式オープニング無事終了

7月に仮オープンのお披露目会は済ませておりましたが、什器備品・環境など整え、8月27日(金)に改めて正式なオープニングの会を催しました。当日は、当センタースタッフはもちろん、共同事業主である株式会社岡元タイルの岡元社長を始め、ご多忙の中、行政、企業、NPOと、さまざまな方面の方々にお集まり頂き、いつもは静かな「フラスコおおまち」がグンと華やいだ時間となりました。

“いろいろな人々が交わることにより、楽しい化学反応をまき起こす”ことが、「フラスコ」と名付けられた所以ですが、その名の通り、参加者お一人ずつから正式オープンのメッセージを頂戴した後は、自然と交流のひと時が生れていました。名刺交換があちこちで行われたその光景は、まるで未来に向かっての新たなつながりが生れる瞬間のようでした。

■これからの「フラスコおおまち」

オープンを終えてからの「フラスコおおまち」は、いつもの静かなオフィススペースに戻っています。入居者が入り、見学者がいらしたり、内部の会議が行われたりなど、それなりに忙しく稼働しています。更に、「内閣府地域社会雇用創造事業」(社会起業家の起業支援)、「みやぎSBネットワーク(むすぶん)」(SB起業の相互支援ネットワーク)、「社会イノベーター公志園」(社会イノベーターを応援するネットワーク)などの当センター他事業とも連動しており、これからはますます賑やかになりそうな雰囲気です。それに伴い、フラスコ専属スタッフも新たに採用します。これからの「フラスコおおまち」、会員以外の方にも参加頂けるイベントも用意しておりますので、どうぞご期待ください。(小川真美)



“日本”を巻きこんだ、 社会起業家の支援プロジェクト 「社会イノベーター公志園」 開催！

社会起業家を育成するプラットフォームづくりを目指す、このプロジェクト。初の取り組みとなる今回は、東北、関東、関西、九州の4ブロックで、地方大会が実施されます。当センターは、東北大会の主催として、8月21日に河北新報社ホールにて、「社会イノベーター公志園 東北大会」を開催しました。

■約120名もの応援者たちが、結集

東北大会では、7名のNPO経営者、企業経営者が、企業、行政、NPO、大学などから集まった参加者約120人の前で、それぞれの志や直面しているカベなどについてプレゼン。参加者は、全国大会に進ませたい発表者に投票するだけでなく、それぞれの挑戦者に応援メッセージを送りました。

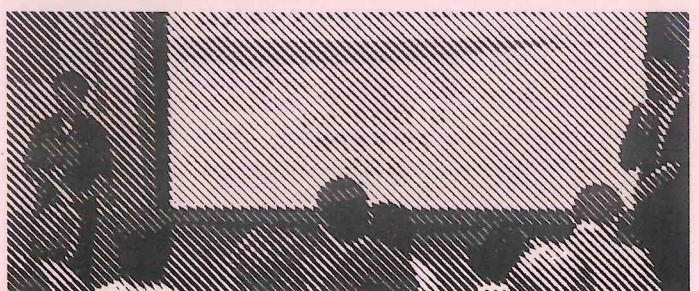
■2団体が全国大会へ！しかし本当の成果は…

審査の結果、伝統工芸や若者、NPOを軸に会津の地域づくりに取りくむ「株式会社明天」の貝沼航さん、障がいを持つ子どもが普通に暮らせる地域の実現を目指す気仙沼の「NPO法人ネットワークオレンジ」の小野寺美厚さん、以上2名が全国大会に進むことが決定。

2人はこれから、東京で実施される数回のワークショップに参加し、ビジョンやビジネスモデルをブラッシュアップして、年明けに開催予定の全国大会に出場することになります。

しかし「社会イノベーター公志園」は、予選大会を勝ち抜いて全国大会に進むことだけに意義・価値があるわけではありません。ときに遭遇する社会の無理解、数々の障壁に立ち向かう人たちと参加者の間で生まれた、共感、応援のネットワークこそ、このイベントが提供した価値です。それは、東北大会の参加者から発表者に送られた、数百枚もの手書きの応援メッセージが、社会イノベーター公志園の価値を物語っているのではないのでしょうか。

(大橋雄介)



家族間コミュニケーションを考える

今年度第1回目のプロベラトークスが、8月17日(火)、仙台市内のシャンパンハウス「ル・オー・ルージュ」さんにて開催されました。ゲストは、東北大学大学院教育学研究科准教授の若島(わかしま)孔文(こうぶん)さん。若島さんは海上保安庁ストレス対策委員、不登校児対策スーパーヴァイザーなど、多方面で活躍されています。今回は「家族コミュニケーション」というテーマでお話して頂きました。

■信念を持って良い部分だけを見る

「親が子どもと接する時、ついつい問題行動ばかりに目が向いてしまいます。「部屋が散らかっている」「親と口を聞かない」など、子どもに対して悲観的になることが多々ありますが、それ以外の良い部分を見ようとせずに、あれこれ注意してしまうと、親子関係がいつそう悪くなります。悲観的になることは、子どもの断片的な部分しか見ていないことなので、もっと別の角度から接していくことが大切です。

心理学用語で「リフレーミング」という言葉があります。「フレーム」つまり、認知の「枠組み」を変えろという意味で、人はどんな出来事もそのまま理解しているわけではなく、何らかの意味づけを行って見えています。否定的に受け取る方もいれば、肯定的に捉える方もいるように、肯定的な枠組みで子どもを受け入れ、信念を持って良い部分だけを見て接し続けることが、家族内でとても重要だ」と若島さんは話されていました。

■参加者の方々の声

参加者からの質疑に対しても、事例を交えた分かりやすいトークを展開し、参加者の共感した姿が数多く見られました。参加者の方々からは、「自分の考え方の整理にもなり、疑問点が少し解消されたようです。」「人間の心の動き、本質的な心の部分についての話が聞けたので良かったです。」と、ご自身の心の整理をされていた方や、「一つのテーブルを囲む感じが心気安くて話やすかったです。」と、少数定員制で行うプロベラトークスに賛同していただいた声など、数多くのご感想をいただきました。若島さんはプロベラトークス終了後も会場にお残りになり、参加者との熱いトークを繰り広げていらっしゃいました。

(近藤浩平)

せんだいCARESキャンペーン

今年で8回目を迎えるせんだいCARESは、仙台のNPO、市民活動団体の活動を市民のみなさまにご紹介する、年に一度のキャンペーン(10月1日～12月17日)です。NPOのイベント情報や、団体情報がつまったフリーペーパーを仙台市市民活動サポートセンターを初めとした、市内各所で配布中です。



■七夕チャリティーシャッター代行サービス

今年もせんだいCARESの運営資金を集めるために、せんだいCARES実行委員、せんだい・みやぎNPOセンタースタッフやインターン生で、七夕の3日間に一番町アーケード内で七夕チャリティーシャッター代行サービスを実施しました。これは、観光客のカメラをお預かりして、七夕飾りを背景に写真を撮って差しあげるというものです。今年は大変な猛暑で、行列の長さは例年ほどではありませんでしたが、3日間で107,103円の寄付をいただくことができました。こちらはせんだいCARESの運営資金として大切に使用させていただきます。

■ベガルタ仙台戦でのTシャツ販売

せんだいCARES協賛企業の(株)ベガルタ仙台さまのご協力により、8月28日に、サッカーJ1ベガルタ仙台の試合会場ユアテックスタジアムにてCARESのオリジナルTシャツ販売を実施しました。今回は千葉直樹選手、平瀬智行選手のサイン入りTシャツを限定各10枚と、サインなし10枚、合計30枚を販売し、おかげさまで全て完売いたしました。ご購入いただきましたみなさま、ありがとうございました!

■せんだいCARESオープニングイベント 「チャリティーナイトマーケット」

10月1日に仙台市市民活動サポートセンター地下一階市民活動シアターにて、せんだいCARES参加団体との交流、NPOの応援を目的とした「チャリティーナイトマーケット」を開催いたしました。通常のフリーマーケットと違うのは、「目標金額:〇〇をすゐるための〇〇円」といった目標金額と用途を掲げいただき、資金調達も意識しながら開催したところ。当日は9団体の出店で、延べ75人の方々にご来場いただき、トータルの上げは117,970円でした。楽しくお買い物をするこゝでNPOを応援する良い機会となりました。(田内亜紀子)

真夏のインターンシップ

大町事務所では8-9月、宮城大学と法政大学からインターンを迎えました。宮城大学から、志賀英仁(シガヒデヒト)さん、高橋結(タカハシユウ)さん、千葉知(チバサトル)さん、長尾知樹(ナガオトモキ)さんの4名(全員、事業構想学部2年)、法政大学からは、現代福祉学部3年の大庭勇(オオバイサム)さんです。ここで、宮城大学生のアンケート結果をご紹介します。

Q1)NPOに対しての考えはどう変化したか? Q2)勉強になったこと、上位3つは?

志賀さん

- 1)インターンを始めるまではNPOや市民活動についての知識は乏しかったですが、価値観や信念を持って取り組むことで、僅かでも社会に変革を与えることが出来るのだと感じました。
- 2) 1. 段取りを良くする方法
2. 報告、連絡、相談の大切さ 3. 期限の厳守

高橋さん

- 1)NPOや市民活動には安定した活動が困難なイメージがありました。関心のある市民や団体の支援や参画によって継続可能な事業として展開できるのだと感じました。
- 2) 1. コミュニケーションの大切さ 2. 資料作成方法
3. 作業効率の仕事に与える影響

千葉さん

- 1)あるNPOへのインタビューによって視野の狭さに気付き、NPOがどのようなことを行っているかを知ろうとする意欲が高まりました。
- 2) 1. スタッフ間コミュニケーションの図り方
2. 仕事に対する責任 3. 報告、連絡、相談の重要性

長尾さん

- 1)インターンシップをする前の自分にとり、NPOという業種は未知のものでした。そのため考えが変化したというよりは、市民活動は地道な一歩が大きな社会貢献につながるのだと理解しました。
- 2) 1. 礼儀 2. 電話がけ 3. プレスリリースなどの広報

様々なことを吸収して当センターを「卒業」していかれた皆さん。今後も継続して当センターボランティアの名乗りをあげた方もいらっしゃいます。今後の活躍も楽しみです!(小川真美)

ソーシャルビジネスの誕生、成長を加速するネットワーク 「みやぎソーシャルビジネスネットワーク(通称:むすぶん)」が発足

先日の総会でもお伝えしましたが、当センターが今年度から力を注いでいるのが、ソーシャルビジネス(以下、SB)の支援事業です。これまで主に支援してきた市民活動団体だけでなく、公共性と資金面での自立性を両立させる活動、あるいは特定の地域だけでなく日本全体や世界を視野に入れた活動にまで、支援対象を広げています。

さて、市民活動団体からSBまで支援対象のドメインを広げたときに考えなければならないのは、具体的な支援対象者のイメージや提供すべき支援のあり方でしょう。やや極端に言えば、特定の問題意識を共有する自発的な市民グループから、事業のアイデア一つでこれから起業しようとする個人や、新規事業を展開しようとする民間企業まで、支援対象者に含まれてきます。そういった新たな支援対象者が必要としていることはもちろんたくさんあるのですが、市民活動団体との比較で言えば、事業のアイデアを相談できる相手や、一緒に事業を動かしてくれる仲間・パートナーではないでしょうか。個人や単独の企業でできることには、どうしても限界があります。

このような考えを背景に、当センターではこの9月に「みやぎ

SBネットワーク」を立ち上げました(英語の頭文字MSBNをとって、「むすぶん」という愛称です)。これからSBを立ち上げたい人、すでに立ち上げていて更なる飛躍を目指す人、支援者としてSBの発展に貢献したい人が参加する会員制のネットワーク。メンバーリストや隔週で開催されるギャザリング(勉強会)を通して会員同士が相互支援することにより、SBの誕生と成長を加速するというコンセプトです。

9月16日に開催されたプレオープニングイベントには、10名程度の集客目標に対して20人以上の申し込みがあり、SBへの注目度の高さ、このネットワークに対する期待を証明する結果となりました。参加者の中心は民間企業の関係者でしたが、「新しいアイデアを見つけたい」、「自分の得意なスキルを活かして、他の人を支援したい」という発言があり、まさにこのネットワークと社会的ニーズが合致したと言っても過言ではないでしょう。

このネットワークの本格的な稼働はまだまだこれから。当センターのHPでも随時会員を募集していますので、ご興味のある方のご紹介などよろしくお願ひします。(大橋雄介)

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成22年度会員 (敬称略・順不同、2010年8月1日～9月30日)

(正会員) 大久保正司、大滝精一、風見正三、片倉玄、北尚登、小林正夫、紅邑晶子、佐藤わか子、山岡義典、山田晴義、沼倉雅枝、新川達郎、長谷川公一、布田剛、福原和淑(認特)みやぎ発達障害サポートネット、(特)東北マンション管理組合連合会、(特)チャリティプラットフォーム、(特)まちづくり政策フォーラム、(特)ミヤギユースセンター、(特)ワンファミリー仙台、(特)宮城県断酒会、東北HIVコミュニケーションズ、
 (準会員) 谷川真奈美(2口)、男女共同参画センター横浜北、(特)茨城NPOセンター・ commons、Anego、くらしきパートナーシップ推進広場、クリーンアップ蒲生、岡田真秀、工藤聡子、高島紗綾、佐藤由里、松尾敏行、上野裕子、大泉太由子、日本たばこ産業(株)、木須八重子、遊佐さゆり

■企業・団体協力 (50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

市民活動アワード

日 程: 2010年11月27日(土)
 時 間: 14:00～17:00
 会 場: 仙台市民活動サポートセンター 市民活動シアター
 主 催: 仙台市(仙台市民活動サポートセンター)
 共 催: せんだいCARES2010実行委員会
 内 容: 市民活動サポートセンターでは、市民活動や企業の社会貢献活動により、地域や社会に起こった変化を紹介し、表彰する「市民活動アワード」を開催します。11月27日は、一次選考を通過した8つのエピソードについて、市民活動団体・企業がステージ発表を行います。すべての発表が終わったところで、オーディエンス(観客)の皆さんと審査員が投票を行い、各賞が決定します。皆さんの一票が、市民活動や企業の社会貢献活動を支える力になります。ぜひ、投票に参加し、賞の発表と表彰の歴史的瞬間に立ち会ってください。

市民活動 カラフルフェスタ

発見! 体験! 街ナカ市民活動

日 程: 2010年11月28日(日)
 時 間: 10:00～17:30
 会 場: 仙台市民活動サポートセンター全館
 主 催: 仙台市(仙台市民活動サポートセンター)
 共 催: せんだいCARES2010実行委員会
 内 容: 「市民活動カラフルフェスタ」とは、市民活動団体・NPOの活動拠点である市民活動サポートセンターで開催される、年に1度のお祭りです。
 ゲストに「CANPANブログ大賞」審査委員長などを歴任する、久米繊維工業の久米信行さんをお招きしてのトークや、市民活動体験・カラフェス交流会などを開催します。多様なカラフルな市民活動と出会うチャンスです。

NPO経営相談

開 催 日: 平成22年11月19日(金)
 平成22年12月21日(火)
 開 催 時 間: 13:00～17:00
 場 所: せんだい・みやぎNPOセンター
 相 談 料: 2,500円(1時間単位、会員は500円引き)
 ※予約制です。まずはお電話を。

せんだい・みやぎNPOセンター presents 大新年会

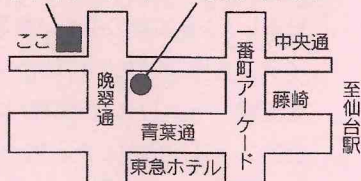
今年ももうこのお知らせをする時期となりました。2010年、当センター職員の「仮装か正装」のお出迎えが好評をよびました、この新年会。2011年はどのようなものになるのでしょうか?!ご期待ください。
 日 時: 2011年1月12日(水)19時開始(予定)
 会 場: 仙台市民活動サポートセンター 市民活動シアター
 詳細決まり次第、追ってご案内致します!

連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
 TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
 E-mail: minmin@minmin.org HP: http://www.minmin.org/

発行: (特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
 編集部: 小川真美・紅邑晶子
 発行日: 2010年11月1日
 デザイン: 氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩20～25分

編 | 集 | 後 | 記 |

金木犀が香る季節も過ぎ、早くも新年会のお知らせをする頃となりました。ここ最近では連続して新年会の司会をさせて頂いておりますが、そろそろ若い職員に道を譲らねば...と考えております。(が、どうなりますことやら。)とは言え、「せ・みNPOセンターさんにはタレントがたくさんいるのね～」と皆さまに仰って頂けるよう、自己研さん、そして育成に努めていこうと思っております。(OGAWA)
 8月末に代表理事の加藤さんが再入院となり、今年の総会は、大滝代表理事を議長に報告は紅邑と事務局次長、各施設長により行うことになりました。理事会で世代交代に向けて、準備をしようかと話していたのですが、9カ月も早まってしまいました。「ピンチをチャンスに変えて行こう!」という組織の方針のもと、ただ今着々とソフトチェンジ中です。加藤さんが退院してきたときに、ぐっと成長したスタッフの姿を見せられるとよいと思っています。なお、総会後の記念講演はこれまでにない参加者数を数え、渡邊社長のお話は新しい企業モデルの姿を実感させられるものでした。ありがとうございました。(べにむらあきこ)